

令和3年度事業報告に関する件

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

全体概要

I 概要

本財団にとって令和3年度は「公益財団法人認定10周年」に当たり、創設以来飛躍的に伸ばしてきた国際会議件数や、古典の日の法制化、古典の日文化基金賞の創設等々これまでの10年間に培ってきた実績を糧に、ウィズコロナ・ポストコロナ社会を見据えて、各事業の更なるブラッシュアップに努め、関係各機関等と連携し、コロナ禍に対して果敢にチャレンジした年であった。

当初1～2年で終息すると見込まれたコロナ禍は、令和3年度においても継続し、変異株の感染が急速に拡大する中、各地で再三にわたる緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されるなど、人の移動と集まりが制限され、観光・MICEをはじめ幅広い産業や文化活動への影響は当初の予測よりはるかに長引くこととなった。

このような中、コロナウイルス感染症の影響を最小限にとどめ、収束後の回復に備えるため、市観光協会と連携したワクチン職域接種への支援や「京都観光ワクチン接種」などに取り組むとともに、賛助会員はもとよりMICE開催主催者や関連事業者への必要な情報提供や支援ツールの適用、さらには各種キャンペーンの事務局を務めるなど、京都府・京都市・関係機関と連携して感染拡大の防止と、観光・飲食をはじめとする経済活動の維持・回復の両立に努めた。

また、経営状況の厳しい賛助会員の皆様には令和2年度に引き続き、会費の軽減措置を取り、個別の事情を踏まえた丁寧な対応に努めたところであるが、廃業や営業縮小に伴う退会や口数の減少など厳しい状況は続くこととなった。

国際観光・MICE誘致については、令和3年3月開催の「第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都 kongress）」で京都実行委員会事務局を務めた経験に基づき、安心安全を基本とした「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル」を構築。感染拡大防止と事業者支援に努めながら、ウィズコロナ下でのMICE開催に向けて、中止や延期となった案件のフォローに加え新規案件の誘致も積極的に展開した。

令和3年も入国制限が続いたため、国際会議の開催はほとんど出来なかったが、国内学会は制限の緩和を受けて現地開催やオンライン併用のハイブリッド型開催が増加し、明るい展望も開けた。さらに、令和4年度以降の回復基調を見据え、海外プロモーション活動を展開するとともに、年度末には「京都市MICE会議」を開催し、有識者や主催者・関係者を集めて今後のMICEにおける課題などを議論した。

また、京都府・京都市のご協力を得て創設した「京都MICE基金」の募集を開始し、持続可能な観光・MICEの構築に着手した。

迎賓館支援においては、記念品販売所移転に向けた準備を行うとともに、販売体制を整えた。さらに、商品にカビが発生した事案を受け、在庫、商品管理の見直しと併せ、財団全体の危機管理についても点検、マニュアル整備を行った。

古典の日推進委員会は、例年の「古典の日フォーラム」「朗読コンテスト」等の取組に加え、彬子女王殿下を名誉総裁に奉戴し令和2年度に創設した「古典の日文化基金賞」第1回授賞式を9月3日に開催し、受賞者はもとより多くの文化関係者を励ます取組となった。コロナ禍で中止していた「まちかど古典カフェ連続講座」もオンデマンドを交えて実施。これら永年の活動に対し、古典の日推進委員会村田会長に「京都府文化賞特別功労賞」「京都市芸術振興賞」が授与された。

全体として、令和2年度に引き続き厳しい状況の続いた年であったが、課題の克服に努めながら次の飛躍に向けて様々な連携を強め、基盤強化を進めた年でもあった。

以下重点施策ごとに令和3年度の取組状況をまとめた。

Ⅱ コロナ禍に対する5つの重点施策別の取組状況

1 文化・観光クロスオーバーの推進

文化振興と観光を融合する視点から注力してきた、MICE会場として文化財を活用する「ユニークベニュー」については、国際会議等が開催されない中、令和4年度の展示商談会に向けての提案や視察旅行のサポート等に努めた。伝統産業品等の活用については、国内学会での「京都らしいMICE開催支援補助制度」の運用や迎賓館記念品としての活用に努めるとともに、新設した「京都MICE基金」の募集を通じて京都の伝統文化を継続することの大切さを訴え、コロナ禍で国際会議の開催が出来ない中、目標の500万円には及ばなかったが100万円を超える基金が集まった。

また、社寺文化財の公開情報についてコロナの影響で変更の多い中、QRコードを掲載した「四季彩」発行により、最新情報を提供した。

2 MICE戦略の推進

ウィズコロナ社会の進展、国際交流の回復を見据え、海外プロモーション活動を継続。新たに13件の大型会議の誘致に成功した。また、令和4年3月にオーストラリア・メルボルンで開催されたアジア最大のMICE商談会「AIM2022」に出展し、商談枠31件すべてが埋まる盛況を得た。国内の学会等については、イベントの制限が徐々に緩和され、現地開催とオンライン併用のハイブリッド開催件数が、令和2年の35件から令和3年には250件と飛躍的に増加した。こうした中、昨年度コロナ禍で延期・中止となった案件の主催者に対し知事・市長連名レターの発出等誘致の働きかけを行い、90件の再誘致に成功した。

開催支援については、次年度以降を見据え、オンライン開催の「STSフォーラム」や「京都スマートシティエキスポ」に運営協力を行うとともに、京都市の新設「MICE主催者向けPCR検査等支援補助金」、昨年から継続の「安心・安全なMICE開催支援補

助金」の活用や、京都府「京の修学旅行3密対策等防止支援事業」と共同した取組により、感染防止に努めながら、修学旅行のサポート、企業の招待旅行の支援も行うなどM1案件のサポートにも力を入れた。

3 国際観光と広域観光の連携推進

京都市観光協会との協働事業である国際観光の推進については、国の水際対策の継続により出入国が制限される中、今後の回復に向け海外情報拠点運営による情報収集とPRの継続、京都市域の宿泊動向に関する情報分析、ウェブサイト、SNS、海外メディアを通じた情報発信を行うとともにオンラインによる旅行博・商談会事業に取り組んだ。

また、京都市認定通訳ガイド育成事業や旅館の若手従業員を対象に研修会を実施するなど国際観光の再開時に質の高いおもてなしができるよう、担い手の育成に努めた。

広域観光振興の取組として、これまで宇治茶プレミアムブランド事業において形成されたネットワークの維持に努めるとともに、2023年以降に開催見込みの「アジアゴルフツーリズムコンベンション」のポストファムトリップに向け、京都府や関係団体等との連携の下、京都府内のゴルフ場及び観光の魅力発信に取り組んだ。

4 京都迎賓館への支援

コロナ禍により、国際賓客の来訪が無かったことから、従来の「もてなし・しつらい事業」は実施できなかったが、一般の見学、来館者に向けたPRとして、瓢亭主人高橋英一氏ご出演による京料理をテーマにしたPR動画の作成や、アニメーションの手法を取り入れたポスターの制作など、新たな取組を行った。

また、記念品販売所が令和4年5月に清和院休憩所内に移転することに伴い、迎賓館との協議等準備を行うとともに、販売体制を整えた。加えて記念品の竹箸にカビが発生したことを受け、在庫、商品管理の在り方を点検、改善した。

5 古典の日の推進

令和2年度に「古典の日推進委員会」は設立10周年を迎え、古典文化の担い手を顕彰する「古典の日文化基金賞」を創設して新たな10年へのスタートの年とした。

令和3年度は表彰初年度にあたり、全国を対象に募集を行い「文学・思想」「伝統芸能・音楽」「美術・生活文化」の3分野に加え、第1回特別賞として「芳賀徹記念・古典の日宣言特別賞」を設け、3名と1団体の受賞者を選定した。9月3日に授賞式を実施し、名誉総裁である彬子女王殿下による記念講演を賜った他、記念演奏、朗読を行った。

古典の日である11月1日には、平家物語にスポットを当てた「古典の日フォーラム2021」、11月20日には「第13回古典の日朗読コンテスト」を実施したほか、5月から7月にかけて京の伝統を担う講師陣による「街かど古典カフェ」連続講座(5回)を実施するなど、情報発信・広報活動等に努めた。

また、これら永年にわたる古典文化の推進活動に対し、古典の日推進委員会村田会長に「京都府文化賞特別功労賞」「京都市芸術振興賞」が授与された。

部門別概要

I 文化交流発信事業（公益目的事業）

1 古典の日推進事業

（1）「古典の日」普及・定着のための事業

「古典の日に関する法律」の趣旨達成のため、文化庁と協力して「11月1日・古典の日」の全国展開に向けた活動を推進。

古典の日推進委員会事業の要となる「古典の日フォーラム」及び「古典の日朗読コンテスト」を継続して実施した。昨年度、コロナ禍の影響で延期となった「街かど古典カフェ」は、NHK文化センター京都教室と共同主催で対面及びオンデマンド配信により全国に向け発信した。

①「古典の日フォーラム2021」

平家一門の栄華を築いた平清盛没後840年。日本の国民文学の代表作であり、語り文化の代表作ともいえる「平家物語」にスポットをあてたフォーラムを実施した。

◇11月1日（月） 13時～16時 京都劇場

◇参加者 521名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為 観客数を制限し、WEB配信を行い「古典の日」の周知に努めた。

生中継利用者

同時視聴者数：50名 11月2日までのアクセス数：約150名

※夜間利用者が多いことがうかがえる。

◇概要

- ・ 画楽交響「横山大観～生々流転～」
ロッシェニ二弦楽ソナタ第2番イ長調
演奏 船岡陽子ヴィルトゥオーゾデルカント

（左より）辻井淳（第一ヴァイオリン・京都市交響楽団元コンサートマスター）森園康一（コントラバス）宇田川元子（チェロ）森園ゆり（ヴァイオリン）



- ・ 古典の日宣言

橋本夏果（第12回古典の日朗読コンテスト【中学・高校生部門】大賞受賞者）

- 主催者挨拶
村田純一（古典の日推進委員会会長）
- 来賓祝辞
都倉俊一（文化庁長官）
- 講演「西行・長明・定家の見た源平の争乱」
講師：浅見和彦（成蹊大学名誉教授）



- 転換期に読む『平家物語』～能楽と語りとともに～

I 解説と朗読

安田登（能楽師）×塩高和之（琵琶奏者）

II 半能「忠度」

シテ（忠度）	金剛	龍謹（能楽金剛流若宗家）
笛	左鴻	泰弘
小鼓	曾和	鼓堂
大鼓	河村	大
後見	豊嶋	幸洋
地謡	種田	道一
	宇高	竜成
	山田	伊純



② 「第13回古典の日朗読コンテスト」

日本の三大随筆『枕草子』『方丈記』『徒然草』の一部範囲を課題作品とし、全国から564名（一般267名、中学生146名、高校生151名）から応募があった。

◆フォーラム「古典の世界を読む2021」公開最終審査会と表彰式

◇11月20日（土） 13時～16時10分 金剛能楽堂

◇参加者 250名

第1次・2次審査を通過した中学・高校生部門から6名、一般部門から8名が最終審査会に出場した。コンテストの合間、佐藤和哉さんの篠笛の演奏と荒木裕氏の講演「クルクル回る『徒然草』—音読／黙読と三大随筆の歴史をめぐる」をお楽しみいただいた。

また、本コンテストの【中学・高校生部門】大賞及び京都府高等学校文化連盟会長賞受賞者が、全国高校生伝統文化フェスティバルで朗読を披露し、オンラインで配信された。



③ 「街かど古典カフェ」連続講座

一流の講師を囲み、古典をより深く、より掘り下げて学ぶ連続講座の実施。

◆「京の『粋』を創る男前（ひと）たち」リレー講演会（連続5回シリーズ）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期していた京の伝統を担う男性陣によるリレー講演会をNHK文化センター京都教室と共催で開催した。

※対面及びオンデマンド配信

◇5月15日、29日、6月5日、19日、7月3日 ※いずれも土曜日

◇14時～15時30分

◇NHK文化センター京都教室

◇概要（講師陣）

コーディネーター：中川典子（株式会社千本銘木商会 専務取締役）

第1回 「手ぬぐいアート」細辻伊兵衛（株）永楽屋代表取締役社長）

第2回 「お能」金剛龍謹（能楽金剛流若宗家）※現地

第3回 「京料理」田村圭吾（京料理萬重若主人）

第4回 「テキスタイル・茶筒」細尾真孝（株）細尾代表取締役）

×八木隆裕（開化堂6代目）

第5回 「お華」笹岡隆甫（華道末生流笹岡家元）

※1講座における

- ・受講人数（対面）30～33名
- ・オンデマンド 8～10名
- ・再生回数 23～40回



(2) 情報発信・広報活動等

- ・「古典の日」ホームページ

全国に向けた「古典の日」の発信と、「イベントカレンダー」に於いて、催し物等に関する情報の提供を行った。コロナ禍の影響で、開催の中止及び延期のお知らせが相次ぎ、イベントカレンダーが文化活動で埋まる日が1日も早く来ることを祈りながら配信を続けている。

- ・古典の日絵巻第十巻「京の美を担う次世代の作家たち」

「伝統と先端」をキーワードに、京都の伝統の美を継承する次世代の作家の皆さんから、伝統と革新、ものづくりについての想い、そして「私のこの一作」を紹介する絵巻。

2021年[4月] 吉岡更紗（染色家）

[5月] 諏訪蘇山（陶芸家）

[6月] 伊東庄五郎（御所人形師）

- [7月] 小倉智恵美（竹工芸作家）
- [8月] 杉本晃則（塗師）・島本恵未（蒔絵師）
- [9月] 青山洋子（和菓子職人）
- [10月] 八木隆裕（茶筒職人）
- [11月] 山本茜（截金ガラス作家）
- [12月] 種田真紀（絵付師）
- 2022年[1月] 羽田登喜（染色工芸家）
- [2月] 平井恭子（京版画摺師）
- [3月] 江里朋子（截金師）



（3）共催事業、後援、ロゴ・シンボルマークの使用許可申請数

◇公益財団法人有斐斎弘道館からの

「京菓子展『手のひらの自然—徒然草』2021」

日本三大随筆の一つ『徒然草』をとりあげ、そこに描かれた言葉（情景）から誕生する京菓子。想像することを通して日本文化を学び、体験する事業。毎年、すばらしい京菓子が誕生し、作品の中（一般応募）から「古典の日推進委員会特別賞」を授与している。

今年度は、古典の日朗読コンテストの課題作品とテーマが同じであったことから、「古典の日推進委員会賞」及び「大賞」に選ばれた2つの菓子を朗読コンテスト最終審査会に残った出場者への記念品とした。

《古典の日推進委員会賞》

銘：染 作：鄭 雯心



◇一般社団法人伝統文化交流協会からの

ジャポニスム花籠講座「万葉の花暦」「歌舞伎よもやま話」「能役者が語る能の作者」「能楽ちょっといい話」

◇日本の伝統文化をつなぐ実行委員会からの

「古典の日」「今昔歌舞伎草紙」「桃山の美とところ」

「桃山の美とところ」開催期間内（3月26日（土））に山本ゼネラルプロデューサーの講演「伊勢物語と俵屋宗達」が開催された。

- 共催申請件数：8件
- 後援申請件数：23件
- ロゴ・シンボルマーク申請件数：10件（令和4年3月31日）

(4) 「古典の日」普及・推進活動及び広報活動等

- ・ホームページアクセス数：19,000件
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

2 古典の日文化基金賞事業

11月1日が「古典の日」として制定されたことを記念し、彬子女王殿下を名誉総裁に奉戴し、日本の古典文化の研究、普及、啓発活動等に貢献した個人、法人、団体を顕彰し、古典の日の推進に寄与することを目的として設立した「古典の日文化基金賞」第1回授賞式を9月3日に実施した。

◆第1回「古典の日文化基金賞」授賞式

11月1日が「古典の日」として制定されたことを記念して創設した第1回「古典の日文化基金賞」授賞式を開催した。

◇9月3日（金）13時～15時30分

◇京都府立府民ホールアルティ

第1回受賞者

左より

- 【文学・思想分野】角田光代（作家）
- 【伝統芸能・音楽分野】沖縄伝統組踊「子の会」
- 【美術・生活文化分野】山本茜（截金ガラス作家）
- 【芳賀徹記念・古典の日宣言特別賞】ツバタナ・クリステワ（国際基督教大学名誉教授）



◇概要

- ・主催者挨拶 村田純一（古典の日文化基金賞顕彰委員会会長）
- ・来賓祝辞 伊吹文明（衆議院議員）
都倉俊一（文化庁長官）
- ・贈賞式
それぞれの活動の紹介の後、賞状と盾、副賞（100万円）を授与した。
- ・講評 臈谷壽（古典の日文化基金賞選考委員会副委員長）
- ・おいわいのことば 西脇隆俊（京都府知事）
門川大作（京都市長）
- ・記念演奏
「越天楽幻想曲」「浜辺の歌」
東儀秀樹（雅楽師、古典の日文化基金賞選考委員会委員／筆筆）
東儀典親（笙） 藤林由里（ピアノ）



「箏恋歌」

大谷祥子 (20 弦) 知原佑実 (13 弦)

藤林由里 (ピアノ)

岸田うらら (パーカッション)

- 記念朗読『山本容子の姫君たち』から
「草の花」「山柿」「竹芝」
檀ふみ (俳優、古典の日文化基金賞選考委員会委員)
- 記念講演「古典を生きる」 彬子女王殿下



◆第2回「古典の日文化基金賞」に向けて

第2回の募集にあたり、第1回の特別賞「芳賀徹記念・古典の日宣言特別賞」の理念と志を継承発展させ、次世代の日本文化を担う若者達の古典文化活動を励まし、顕彰するための「古典の日文化基金未来賞」を新たに設けることとした。

◇令和4年度候補者総数 96件

- 自薦・他薦 43件 (内：未来賞応募数15件)
- 事務局選考及び候補者情報調査会委員推薦 53件

これらの永年の活動に対して、京都府文化賞特別功労賞及び京都市芸術振興賞が、古典の日推進委員会会長村田純一に授与された。



3 京都迎賓館支援事業

京都の伝統技能の粋を集めて建設された京都迎賓館で行われる、外国賓客の接遇や参観事業の支援を通して、京都の文化の伝統技能やおもてなしの文化を普及する事業である。昨年度に引き続き、コロナ禍の影響により外国賓客の入洛はなかった。

① 京都迎賓館PR動画の作成・公開

「京料理」をテーマとする動画を作成し、瓢亭14代目当主の高橋英一氏に京都迎賓館における京料理の魅力やおもてなしなどについてお話いただいた。作成した動画は、本財団のホームページのほか、京都迎賓館公式 YouTube チャンネルなどで発信している。

ア 公開日時

令和3年11月11日（木） 午前10時

イ 動画内容

・タイトル

京都迎賓館—おもてなしの心—

・テーマ

京料理

・内容

○京都迎賓館の紹介

○京都迎賓館における京料理の魅力やおもてなしなどについての、高橋英一氏に対するインタビュー

② 京都迎賓館PRポスターの作成

京都迎賓館の認知度を幅広い世代に広めるとともに、参観者のリピーター化や口コミによる情報拡散に繋げるため、アニメーション等に使用される美術背景等を通じ、写真では表現しえない京都迎賓館が有する魅力を広報・拡散するためのポスターを制作した。

（同ポスターの公開時期は調整中）

③ もてなし・しつらいプロデュース事業

京都迎賓館における賓客接遇の際、しつらいの一つとして活用するいけばな文化の継承・発展のためいけばな協会への支援を行っているが、今年度はコロナ禍の影響により中止した。

④ 京都迎賓館一般公開への支援事業

京都観光・文化情報コーナーを設置し、府、市、商工会議所等の資料を配布した。

⑤ 特別企画「京都迎賓館文化サロン」への企画協力

京都迎賓館を会場に、日本の歴史・文化に関するテーマ毎に京都迎賓館にゆかりのある講師による講演等及びプレミアムなガイドツアーを体験できる特別企画「京都迎賓館文化サロン（第7回 綴れ織物）」への企画協力を行ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、直前で中止となった。

4 京都創生推進フォーラム事業

京都市からの委託を受け「京都創生（歴史都市・京都の魅力に磨きをかけ、世界へ発信していく取組）」の意義を周知するため、会員に向けた情報発信やホームページの管理・運営などを実施した。

5 文遊回廊事業

株式会社京都新聞社と共催し、文化と観光をクロスオーバーした、京都を舞台とした文学作品ゆかりの地を巡る「文遊回廊」（紙面掲載）を実施。コロナ禍の影響により5月以降は掲載を見送った。

2017年10月～2021年5月（月1回・毎月第4木曜日掲載）

6 情報誌「四季彩京都」の発行

- ・発行回数：年2回
- ・部 数：春・夏号 50,000部
秋・冬号 50,000部
- ・内 容：社寺・文化財特別公開情報

II 国際観光コンベンション事業（公益目的事業）

1 コンベンション（MICE）事業

（1）京都 MICE 基金の創設・運用開始

国際会議など MICE による地域貢献促進のため、京都府・京都市などの協力の下、「京都 MICE 基金」を創設・運用を開始した。

本基金の運用を通じて、京都の多彩な文化・芸術や豊かな自然環境、美しい景観の保全・継承活用を図り、京都の魅力や人々の暮らしの向上、MICE・観光振興及び SDGs 達成に寄与する取り組みへの支援・貢献を行う。

令和3年度 実績：1,090,260 円



（2）プロモーション事業

○ 海外プロモーション活動

- ① 世界的な MICE 専門誌での京都特集の掲載
アジアを中心に最も購読者の多い MICE 専門誌である、TTG MICE において、京都の特集を掲載。小学校跡地を活用した新しいホテル、ユニークベニュー、京都 MICE 基金、そして、京都コンgres での安心・安全な国際会議の状況が世界に向けて発信された。



- ② 当財団が加盟する ICCA（国際会議協会）に登録される約 12,000 団体に対し、定期的に京都の最新情報を提供。これにより、誘致に成功した他、問い合わせ等から、新たに 13 件の大型国際会議の誘致に成功。
- ③ 令和4年3月21日～23日、オーストラリア・メルボルンで開催された、アジア最大規模の MICE 商談会である「AIME」において、京都市海外情報拠点と連携して出展。商談枠が全て埋まる 31 件の商談を実施した。



○ 国内プロモーション活動

コロナ禍の影響により、多くの誘致中案件では誘致活動が中断されていたが、オンライン等で誘致活動を続ける国内主催者と連絡を取り合い、支援を継続。昨年度コロナ禍により、延期・中止となった MICE 主催者 152 団体に対し、知事・市長名レターの発出、及びフォローを行い、国内会議 62 件、国際会議 28 件、計 90 件の再誘致に成功した。

(3) 開催支援事業

① 政府関連特定会議等の京都開催への運営協力

[第 18 回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STS フォーラム)]

公開シンポジウム	2021 年 10 月 2 日	オンライン開催
歓迎レセプション	新型コロナ感染症拡大を踏まえ実施せず	
京都エクスカージョン	新型コロナ感染症拡大を踏まえ実施せず	

② 京都スマートシティエキスポ 2021 への運営協力

京都スマートシティエキスポ 2021 は昨年に続きコロナ禍の影響により、完全オンライン開催となったが、準備委員会や運営協議会、事業者選定会議など積極的に京都府と連携することにより開催後方支援を行った。

③ 感染拡大防止対策を万全に講じた会議の開催支援

今年度新設した、「MICE 主催者向け PCR 検査等支援補助金」や、昨年同様「安心・安全な MICE 開催支援（MICE 主催者向け）補助金」等、豊富な支援制度を周知し、安心・安全な MICE 誘致・開催支援に取り組んだ。

④ MI 案件・展示会 (E) の開催支援

京都の都市格に相応しい大手企業や組織が主催する多くの MICE の京都開催を支援した。

2022 年 6 月に開催が予定されるハイブランドの展示商談会の会場選定に向けて、神社仏閣や歴史的建造物など会場候補となる施設を提案し、視察調整や施設との交渉サポートを行った。その結果、ユニークベニューでの開催が決まり、文化財の活用につながる機会の創出につなげることができた。

10 月 9 日～10 日に開催された大手外資系企業の顧客招待旅行では、今年度新たに開設した「MICE 主催者向け PCR 検査等支援補助金」が活用され、コロナ禍でもプログラムがより安心・安全に開催されるよう支援を行った。

また、京都産業大学で京都の観光や文化を学ぶ学生向けのフィールドワークコンテンツの企画立案を行った。開催に向けて受け入れ先の調整から関係者との事前協議への同行までサポートし、東山地区での観光への取り組みを学ぶために清水寺を訪問、ホテル青龍京都清水では、元小学校の跡地活用例と地元住民との共存について話を伺った。



12月には大原地区を訪問し、大原の地域活性化には、地元の野菜生産者との関係が重要であることを学習した。

同じく12月には、東京大学公共政策大学院の学生13名の京都視察旅行を実施。二条城でのガイドツアーの参加、旧小学校の跡地活用例の見学や寺院の特別拝観を通じて京都観光の現状を学び、今後の課題について意見交換をするといった内容を大学側の意向をもとに行程の提案を行い、実施に至った。

3月には、フィリピン共和国観光省大臣の入洛に際し、サステナビリティ関連の視察について相談を受けたため京都迎賓館を提案。京都市ビジターズホストによる解説を交え、京都の伝統工芸の活用を視察いただいた。

⑤ オフサイト・レセプション等の企画・提案

(公社)京都市観光協会や賛助会員事業者と連携しながら、開催地ならではのユニークな施設・会場(オフサイト・レセプション)の企画・提案を行った。萬福寺や嵐山祐斎亭など新たな施設との連携が強化された。

(4) 各種支援制度の運用状況等

① 助成金

(ア) 大規模国際コンベンション開催支援助成金の活用(京都市)

[申請案件(2021年度申請(認定)分)]

会議名	参加者	開催予定年度	認定額 (万円)
Global Summit 2023	1,200名	2023年度	300
第15回国際先天代謝異常学会	2,500名	2025年度	300
CG Kyoto 2022	650名	2022年度	250
アジア児童青年精神医学会	500名	2023年度	250
アジア医療情報システム学会	1,500名	2023年度	250

[2021年度交付案件] なし

(イ) 大規模国際コンベンション誘致支援助成金の活用(京都市)

[2021年度交付案件] なし

(ウ) 令和3年度大規模コンベンション開催支援助成金の活用(京都市)

利用件数：7件 支援金額：12,500,000円

会議名	参加者	開催期間	認定額 (万円)
第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	750名	5月12日~15日	150
第58回日本リハビリテーション医学会学術集会	2,000名	6月10日~13日	250
第32回日本緑内障学会	500名	9月10日~12日	150
第117回日本精神神経学会学術総会	9,000名	9月19日~21日	200
第58回全国建設業労働災害防止大会	4,000名	10月7日~8日	200

ウッドライズ 2021 日本大会	800 名	10月15日~17日	200
第 31 回日本乳癌検診学会学術総会	1,500 名	11月26日~27日	100

※開催日順

(I) MICE 主催者向け PCR 検査等支援補助金（京都市）**新設**

利用件数：21 件 支援金額：46,129,000 円

(A) 安心・安全な MICE 開催支援（MICE 主催者向け）補助金の活用（京都市）

利用件数：22 件 支援金額：4,531,000 円

(カ) 「京都らしい MICE 開催支援補助制度」の活用（京都市）

利用件数：12 件（うち伝統産業製品 7 件）

支援金額：4,969,905 円（うち伝統産業製品支援：2,354,668 円）

(キ) 中・小規模 MICE 開催支援助成金の活用（京都市）

利用件数：14 件 支援金額：3,000,000 円

(ク) 「京の修学旅行 3 密防止対策等支援事業」の活用（京都府）

利用件数：537 件 支援金額：62,870,000 円

(ケ) 「京都府 MICE 開催支援助成制度」の活用（京都府）

利用件数：0 件 支援金額：0 円

(コ) MICE 向け京都伝統産業製品貸出制度の活用

利用件数：4 件

② その他の支援サービス(※3 月末実績)

(ア) 京都コンベンション・パス(地下鉄・市バス特別乗車券)の発行

利用件数：0 件 発行金額：0 円

(イ) 京都イメージバンクの活用

利用件数：48 件

(ロ) 公開シンポジウム等広報支援制度

利用件数：1 件

(ハ) 京都開催 PR 用バナー貸出制度

利用件数：1 件

(ニ) プロモーション DVD の貸出・提供

利用件数：1 件

(ホ) 京都市 MICE デスティネーション PR 映像の貸出・提供

利用件数：17 件

(ヘ) 京都ストックフッターライブラリ映像の貸出・提供

利用件数：7 件

(ニ) 各種広報印刷物等の提供

利用件数：9 件（京都観光案内地図(日英併記) ほか)

(5) 広報宣伝事業

① メールマガジン(京都観光 MICE ニュースレター)の発行

当財団賛助会員や京都市観光協会会員に加え、商談会、視察、問合せ等で接触する国内外のミーティングプランナー、MICE 主催者に対し、定期的に京都の観光 MICE 関連情報を発信することにより、京都での MICE 開催を意識させ、京都への MICE 誘致促進につなげるためメールマガジンの配信を実施した。

② ホームページによる京都における MICE 関連情報の発信

国内外の MICE 主催者・参加者に対し、MICE 開催都市「京都」の情報発信を行うため、世界中の国際会議や国際学会の主催者や事業者、加えて京都市内の大学関係者の皆様の利便性向上を図った。

(6) MICE 関連情報の調査・収集・検討

① 情報の収集

観光庁、日本政府観光局(JNTO)、日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー(JCCB)、ICCA (International Congress and Convention Association 国際会議協会)をはじめ関係団体との積極的な交流を図り、MICE 関連情報の収集に努めた。

② 環境に配慮した MICE 都市の世界的取組への参画

環境にやさしい国際会議の開催を目指して、コンベンションや見本市に関する国際的機関が立ち上げた組織である GDS Index(Global Destination Sustainability Index)に、2016 年 7 月にアジアで初めて参画し、「環境に配慮した持続可能な MICE 都市」としての位置付けの強化に努めている。そうした取組から、同組織加盟都市から開催地を選ぶ MICE の誘致も成功している。

③ 京都大学との協力による国際会議推進

「京都市と京都大学との国際学術都市としての魅力向上に関する連携協定書」(2015 年 8 月締結)に基づき、京都大学と国際会議の推進に関する協議等を継続して実施している。また、各学部の教授会や、研究支援組織の会合等、様々な機会を捉えて、支援施策の PR を行うとともに情報収集に努めている。

④ 京都府警との連携

府警本部警備部と当財団の間で 2015 年 3 月に締結した「京都をテロから守る連携協定」に基づき、安心して参加できる国際会議都市・京都のステータスを維持するため情報交換・情報発信を継続して実施している。

⑤ 統計調査・発行

国際会議統計「2020 京都で開催された国際会議」発行

⑥ 京都市 MICE 会議の開催

3月29日、「京都市 MICE 会議」を開催。MICE の有識者・MICE 施設・旅行会社・会議運営会社・会議主催者（大学関係者）・行政などが参加し、京都観光振興計画2025、当財団の取組説明、今後の MICE における課題などについて、活発に意見を交換した。



(7) その他

公益社団法人京都市観光協会と連携し、以下の事業にあたり、事務局業務を行った。

① 職域接種実施に対する支援助成金

新型コロナワクチン接種に関する地域の負担を軽減し、接種の加速化を図ることを目的に、職域接種を実施する会員に対する支援助成金制度を創設。

② 京都観光ワクチン接種

当財団及び京都市観光協会の各会員などを対象とし、京都市勧業館みやこめっせにおいて、1回目接種（8月30日～9月2日）・2回目接種（10月5日～8日）を実施。

職域接種に対する支援助成金と、京都観光ワクチン接種により、40,000人を超える観光事業者の方への接種を促進した。



(ワクチン接種会場の様子)

③ 清掃活動

10月27日、新型コロナウイルス感染症感染防止のため飲食店等に出されていた時短要請の全面解除を踏まえ、観光客の皆様をあたたかくお迎えするため、ワクチン接種を終えた市内観光事業者等約50名の皆様と共に、先斗町通と川端通周辺の清掃活動を実施した。



(清掃活動の様子)

④ KYOTO again～京のため、明日のためにできること～キャンペーン

市民生活との調和や環境・景観の保全などを記した京都観光基準（京都モラル）の主旨に賛同するとともに、ワクチン接種済又はPCR検査等での陰性が分かるものを提示できる市民・観光客を対象に、キャンペーン参加店舗で素敵な特典や次回の京都観光時に利用できる食事券などのプレゼントが当たる抽選券を配付。本事業の事務局業務を実施した。



(キャンペーンロゴ)

⑤ 平日の京都へ！おこしやすキャンペーン

平日に利用する旅行者に対して、地域の飲食店や小売店で利用できる地域クーポン券や豪華賞品を抽選で付与することにより、平日の宿泊観光を促進し、その誘客効果を府内の店舗・施設における消費喚起につなげる、同キャンペーンの事務局業務を実施した。



(キャンペーンロゴ)

⑥ 京都レストランウィンタースペシャル2022

京都市・京都市観光協会・当財団等が参画し、京都を代表する料亭やレストラン、ホテルなど、冬ならではの期間限定メニューを特別価格で提供する同事業を令和4年1月8日～3月18日まで実施。当財団は事務局業務の一部を担った。



(記者会見の様子／公式ホームページ)

2 国際観光事業（京都市観光協会との協働事業）

(1) 海外情報拠点管理運営事業（京都市委託事業）

世界6都市（ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、シドニー、台北）において情報拠点（レップ窓口）を設置し、現地の旅行動向等の情報を収集するとともに、マーケティングに基づいた京都観光のPR活動等をオンラインで実施した。

(2) 京都市域内統計収集・分析強化

京都市域のホテル105施設の協力を得て、国・地域別の宿泊状況調査を毎月実施し、データ月報として発表した。今年度からは、旅館32施設に協力いただき、旅館統計として対象施設の宿泊状況の公表を開始した。世界最大のホテルデータサービス提供会社、STRとの連携のもと、客室平均単価（ADR）等の情報を国内外主要都市と比較するなどの情報分析を行った。

(3) ウェブサイトの運用事業（京都市補助事業）

外国人観光客向けに情報発信しているウェブサイト「Kyoto City Official Travel Guide」について、京都ブランドの維持向上や回復期の来訪機運を醸成するための情報に加え、マナー情報や分散化に資する取組の発信を実施した。

(4) ソーシャルネットワークの運用事業（京都市補助事業）

英語 Facebook「Visit Kyoto」ページや、中国のSNS、Weibo（ウェイボー）の京都観光公式アカウントにおいて、京都情報の発信を行った。

(5) 海外メディア取材誘致・露出強化事業（京都市委託事業）

海外有カメディア（雑誌、テレビ、ウェブサイト等）の取材受入について、オンラ

インを中心に推進し、メディアへの効果的な露出を図った。実施にあたっては、海外トレンドなどを勘案し、サステナブルやエコ、ウェルネス等の素材提供や切り口を推進している。

支援件数：23件28媒体

(6) オンラインによる旅行博・商談会事業

国内外で開催されている旅行商談会については、オンラインによる参加を行い、DESTINEーションとしての京都のPRを行うとともに、多くの顧客を有する海外の有力旅行会社関係者に対し、市内の旅行事業者等に関する情報提供を行うなど、海外から京都への旅行商品造成の拡充及びネットワーク構築を図った。

2021年 9月 Japan Showcase (米国)

2021年 10月 Japan Luxury Showcase (欧米豪)
ITB アジア (シンガポール)

2021年 11月 WTM (英国)

2021年 12月 DTTT X' Festival (英国)

2022年 3月 VJTM (アジア、オーストラリア)
ITB Berlin (ドイツ)

※ 8月オリンピックメディアブース(東京)は出展予定であったが、緊急事態宣言のため、資料設置のみの参加。

(7) 京都市認定通訳ガイド育成事業(京都市委託・補助事業)

京都観光の専門知識を身に付け、外国語で京都の奥深い魅力を伝えることができる京都市独自の通訳ガイド「京都市ビジターズホスト」を対象としたスキルアップ研修等を実施した。また、認定から5年目迎えた第1期生に対し、更新試験を実施した。

認定登録ガイド数：205名(令和4年3月31日時点)

(8) 旅館活性化支援事業(京都市補助事業)

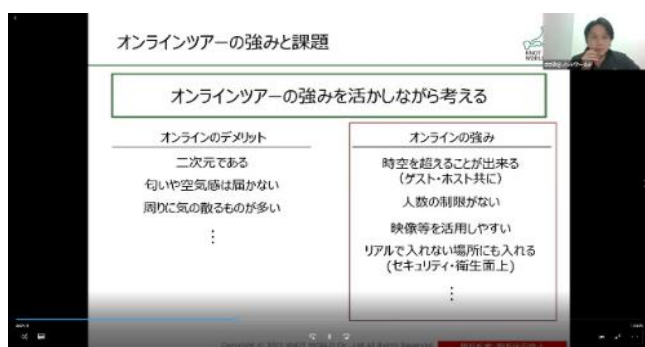
宿泊施設の主に若手従業員を対象に、京都の文化、接遇の基礎知識を学習し、勤務する宿泊施設でのサービス向上につなげるため、研修会を実施した。

時期：令和3年8月～11月

内容：礼法、ビジネスマナー、京ことば、クレーム対応 等

参加者数：207名

※ 一部オンラインにより開催



3 広域プロモーション事業

(1) 宇治茶プレミアムブランド化事業

新型コロナ感染症拡大防止のため、具体的なプロモーション活動は実施できていないが、関係団体と定期的に情報交換を行い、これまでの宇治茶プレミアムブランド化（高付加価値化）に取り組んできたネットワークの維持に努めた。

(2) アジアゴルフツーリズムコンベンション ポストファミトリップ

令和3年3月に宮崎で開催される予定であった、アジアゴルフツーリズムコンベンションのポストファミトリップ実施に向け、ポストファミトリップを実施する一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会や京都府や関係団体、ゴルフ場等と密に連携を取り、開催に向けた調整・準備を行った。

また、10月には、ポストファミトリップの事前事業と位置づけ、ゴルフメディア記者を招請し、京都府内のゴルフ場及び観光魅力の発信を行った。（その後、新型コロナウイルスの影響を受け、アジアゴルフツーリズムコンベンションの開催は2023年以降に延期）

Ⅲ その他の事業（公益目的事業）

1 会報誌「京都文化交流コンベンションビューロー通信」の発行

- ア 仕様：A4版、4ページ（オールカラー）
- イ 作成部数：900部
- ウ 発行回数：年4回発行（4月・7月・10月・1月）
- エ 配付先：賛助会員・関係団体 ほか

2 関係団体との連携等

関係団体と連携し、「京都・花灯路」や「京の七夕」へ主催者団体や実行委員会の一員として参画したが、コロナ禍の影響により内容を縮小して実施したほか、「時代祭」の時代行列巡行は中止となった。

なお、閑散期の誘客策等として大きな成果を得た「京都・嵐山花灯路」及び「京都・東山花灯路」については、令和3年度をもって終了。

① 嵐山花灯路

令和3年12月10日（金）～19日（日）
来場者数：157万8千人（過去最高。今回17回目の開催）

② 東山花灯路

令和4年3月4日（金）～13日（日）
来場者数：95万1千人（今回18回目の開催）

③ 京の七夕

「願いごと」の募集とお焚き上げ（8月16日）のみ実施

応募者数：19,960件

（オンライン 9,494件、郵送 479件、イベント等 9,987件）

3 ホームページの内容充実等

文化交流事業の紹介や各種サービスの活用を促進するため、ホームページを随時更新し、発信を行った。

IV 共益・収益事業

1 賛助会員制度の運営

(1) 新規勧誘の促進

平成24年度から5年連続で大幅に賛助会員を増加させ、23年度末の356件から、28年度末には629件（1.8倍）まで拡大させた。

しかし、28・29年度でインバウンド部門を市観光協会へ移管した影響が大きく、その後、MICEを中心により一層加入促進に努めているが、微減が続いていた、

令和3年度は、昨年度に引き続き、コロナ禍の影響を鑑み、会費の納入猶予及び免除・減額を行った。また、新たな業種等の加入促進にも努めたが、コロナ禍の影響は大きく、令和3年度末の賛助会員は、令和2年度末より減少し、332件484口（特例の減免対象会員（18口を含む））であった。

ア 新規加入会員（10社100口）

会 員 名
文化芸術体験 CAREN 株式会社
京都山科ホテル山楽
株式会社新映社
神田オフィス
カンデオホテルズ京都烏丸六角（株式会社カデオ・ホスピタリティ・マネジメント）
オークウッドホテル京都御池
株式会社柴橋商会京都支店
特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構
相鉄フレッサイン京都四条烏丸
株式会社ジェイアール東海パッセンジャーズ

イ 退会会員（40社40口）

会 員 名
有限会社伊藤柳櫻園茶舗
株式会社ミリエーム
株式会社 Necusto
株式会社福寿園
ホテルグラッドワン京都四条大宮
ホテルユニゾ京都四条烏丸
バイドゥ株式会社
臨濟宗大本山大徳寺塔頭 大慈院
フォーシーズンズホテル京都
株式会社テイクアンドキヴ・ニーズ InStyleweddingKYOTO
吉田山荘
株式会社ハートス
御所西 京都平安ホテル
コープ・イン・京都
大原の里
京都ガーデンホテル
NPO 法人 衣紋道 雅ゆき
ホテルグラッドワン京都七条
株式会社どこいこ
リコージャパン株式会社 京都支社
じゃらんリサーチセンター（株）リクルート
株式会社おめん
よーじや（株式会社國枝商店）
グレイスヴィラ二条城
ホテルギンモンド京都
株式会社オリジナルボックスかもがわ
ギオン福住
株式会社デイリー・インフォメーション関西
ホテル京都木屋町
ni ten ichi ryu
株式会社ジェイ・リンクス
メルパルク京都
ぎおん畑中
正伝永源院
京料理 箔
Cerca Travel 株式会社
エクスペディアホールディングス(株)

ジャパン エクスぺリアンス（ツアーアンベストキョウト）
庵町家ステイ
アール工芸印刷社

ウ 賛助会員数の推移

年度別	会員数	口数
平成20年度末	264	384
平成21年度末	257	374
平成22年度末	255	367
平成23年度末	244	356
平成24年度末	289	507
平成25年度末	297	517
平成26年度末	337	562
平成27年度末	370	601
平成28年度末	398	629
平成29年度末	396	608
平成30年度末	385	591
令和元年度末	383	587
令和2年度末	362	536
令和3年度末	332	484

(2) 「会員の集い」の開催

賛助会員間の情報交換・相互のネットワーク強化を目的として、毎年開催してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和元年度・2年度と開催を見送った。令和3年度もオミクロン株による再拡大の状況に鑑み、やむなく中止した。

2 京都迎賓館記念品の販売

京都迎賓館の通年公開に併せ、京都迎賓館での記念品の販売を実施するとともに、京都観光案内ブースを運営した。

また、令和4年5月20日の清和院休憩所（京都迎賓館南側）への販売所移転準備や販売体制の構築などを実施した。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発出により、京都迎賓館においても観覧及び記念品販売は休止となった。こうした影響により、今年度の記念品販売額は対前年比で5%増となったが、コロナ禍前の約4分の1まで減少した。

また、夏場（8月20日～9月30日）の休止期間を経て再開した後、竹箸へのカビの発生が判明するなど在庫管理上の問題も生じた。竹箸については直ちに販売を中止、申し出のあった購入者に返金（計3件）した。本件については、事案を公表するとともに原因を調査し、他の在庫品についても点検するとともに、迎賓館はじめ関係先に説明、陳謝した。

なお、本件を契機として、記念品販売の在庫管理体制を強化するとともに、財団の危機管理マニュアルを新たに策定し、危機発生時における対応方法等を財団全体で共有している。

V 管理運営

1 理事会の開催

(1) 第21回理事会

ア 方法 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条（公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー一定款第31条）に基づく理事会決議の省略の方法により開催

イ 議事 第1号議案 理事、監事の選定を評議員会に諮る件
第2号議案 令和2年度事業報告に関する件
第3号議案 令和2年度決算に関する件
第4号議案 令和3年度収支予算の補正に関する件
第5号議案 「京都 MICE 基金」運営要綱の一部改正に関する件
第6号議案 評議員会の開催に関する件

(2) 第22回理事会

ア 日時 令和4年3月3日（木） 午後3時～4時

イ 会場 からすま京都ホテル 双舞の間

ウ 出席者 理事10名、監事2名

エ 議事 第1号議案 名誉顧問及び顧問の選任に関する件
第2号議案 令和4年度事業計画に関する件
第3号議案 令和4年度収支予算に関する件
第4号議案 令和3年度収支予算の補正に関する件
第5号議案 「古典の日文化基金賞顕彰委員会」設置要綱の一部改正に関する件
第6号議案 「経理規程」及び「経理規程施行細則」の一部改正に関する件
第7号議案 評議員会の開催に関する件

2 評議員会の開催

(1) 第21回評議員会

- ア 日 時 令和3年6月22日(火) 午前10時~11時
イ 会 場 ホテルグランヴィア京都 源氏の間
ウ 出席者 評議員7名、専務理事1名、監事1名
エ 議 事 第1号議案 評議員の選任に関する件
第2号議案 理事、監事の選任に関する件
第3号議案 令和2年度事業報告に関する件
第4号議案 令和2年度決算に関する件
第5号議案 令和3年度収支予算の補正に関する件

(2) 第22回評議員会

- ア 日 時 令和4年3月18日(金) 午後3時30分~4時30分
イ 会 場 ANAクラウンプラザホテル 朱雀の間
ウ 出席者 評議員8名、専務理事1名、監事2名
エ 議 事 第1号議案 評議員の選任に関する件
第2号議案 令和4年度事業計画に関する件
第3号議案 令和4年度収支予算に関する件
第4号議案 令和3年度収支予算の補正に関する件

令和3年度事業報告には、定款第8条第1項2号に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成しない。

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー

